1951年12月7日第3種郵便物認可

社会新報（岡山県連合版）

2014年10月1日（毎月1日発行）

社会民主党全国連合機関紙宣伝局（毎週水発行）
〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1
TEL03-3592-7515 1部180円月700円〒160

岡山市北区弓之町5－7 Tel.086－226－1234
http://www.sdp.or.jp/okayama/index.html e-mail：sdp_okayama@helen.ocn.ne.jp

発行責任者 武本恒夫

全国キャラバン 社会民主党党首 吉田忠智との対話集会

党員、労組、先輩、若者からも活発に発言

社民党岡山県連合は9月6日、党全国連合・吉田ただとも党首を迎え「ただともWA全国キャラバン岡山」を開催。今回で34県目。午前、原発事故避難者と対話。岡山は西日本で最も多いが（登録者1千人余実際は3～4倍以上）、抱えている課題は避難者だけの問題ではないと訴えた。午後からは市内2ヶ所で街頭に立ち、3時からの「対話集会」は、党員、支持者、労組・OB、団体、市民学生ら58名参加、12名が発言し、活発に質問・意見を交わした。

左：原発事故避難者との対話
中：対話集会で活発な意見交換
下：岡山市内で

福島だけの問題ではない 情報といまできることを

避難・移住の皆さんと厳交き合わせ

岡山に避難や移住した8名が参加。「被曝・健康問題は福島だけの問題ではない。避難したくても留まらざるを得ない、今も被曝に脅かされている人など、広く情報提供を」「汚染地域の第一次産品を拡散させない・食品の測定情報の提供を」「汚染地域からどう避難させるか。今できることを」「一人ひとりの人生があり、普通の生活があった。同じ人間ということを考えて」など、時に涙し、時に厳しく迫る場面や意見に、吉田党首は真剣に聴き、応えた。

吉田党首へエールも 若い人の活動強化を

吉田党首との白熱対話集会

吉田党首は、安倍政権の危険性を改めて指摘「暴走に歯止めを」「原発事故避難者の厳しい声をいただいた。政党、立場を越えて脱原発の動きをつくる」「いま大企業優遇策ではなく、一番働きやすい国にすることだ」「反辺野古へ沖縄の民意は変わった。知事選に勝利し、流れをかえよう」と語り、社民党の存在意義を発揮しようと熱く語った

討論に移り発言者は12名。「震災復興は、先に実行で問題処理は後から考える」「原発事故後の安全はウソだ。オリンピックはウソのおもてなしになる」「集団的自衛権で血を流す覚悟が求められることを分かり易く発信を」など、また「政治不信」「介護問題」「税制」などで意見が続いた。50年来の党員は「社会党名復帰を」若手も「社民ユースの活動強化を」初めて？学生は一礼して「党首の政治活動のキッカケは」と質問、これまで党県連合の集会では聞かれない発言も続き、活発な意見交換と吉田党首からの丁寧な応答で、森暢子顧問からは吉田党首へエールが送られた。

（文責：野崎）

紙面Twitter

宮原さんよりうれしいメールがあった。「以前から情報交換していた社民党北海道連合から『新報岡山版』に載った藤田前代表の『プラカードの取組み』を見て感激された様子で『北海道の寒さも吹っ飛ぶ暖き情報をありがとう大先輩や県連合の皆さんによろしく伝えて欲しい』」というもの。一人の行動がさらに拡がるうれしい話だ。

さようなら原発全国集会 9・23亀戸

「デング熱騒動」の中、当初3団体共催が会場変更、規模を縮小し「さようなら原発」単独で開催、16千人が参加。呼び掛け人の鎌田慧、大江健三郎氏らが安倍政権の「原発再稼働ありき」の姿勢を厳しく糾弾した。海外からも、韓国・台湾の代表が連帯の挨拶を行った。

会場には多くの出店ブースが立ち並び、「社民東京ユース」の仲間も出店。集会後は隣駅の錦糸町駅まで1時間デモ行進した。

（報告：福島・宮原）

党県連合活動日誌（主な9月活動と10月予定）

- 9/6 ただともWA全国キャラバン岡山
- 9/15 党県連合常任幹事会
- 9/23 さよなら原発東京集会（福島・宮原）
- 9/24 党県連合街宣統一行動（岡山駅前）
- 9/27 1・2区支部連合集中行動（ビラ配布）
- 9/27-28 党全国活動交流会（武本幹事長）
- 9/30 党選対委員会
- 10/3 1・2区党員会議
- 10/14 党中国ブロック幹事会（岡山）
- 10/15 党全国ブロック青年代表者会議（宮原）
- 10/22-23 党ブロック議員団総会（山口）
- 10/31 金剛山歌劇団岡山講演（岡山）

読

「書の秋」は、もはや死語となっているかも知れない。電車の中で本を読む人は絶滅危惧種か、目線の先には小さな画面ばかり。かつて本に代わった「ウオークマン」そのソニーが今や落日になるほどにメディアの変化は激しい▼「懇話会」9月例会は、「朝日の誤報」をキーワードに情報が支配する社会とは？あるべき受け手の視点とは何か。ナチスの「ウソも百回言えば真実になる」を今日の社会で見直し、メディアが持ち上げるアベノミクスの実相は果たして正しいのか、自分の実感から検証▼「読者には情報を批判的に読む力が求められており、権力にとって好都合なのは言論機関同士が互いにつぶし合って共倒れになることだ。その代償は朝日の誤報よりずっと大きい」（東京新聞9／17）の問いかけは重要だ。「社会新報」は9／23付でメディアの朝日バッシングを批判的に取り上げた党の活動を報じた▼「ながらスマホ」から一時目を上げ、周りや前を見てみよう。そこでは白杖にもやさしい社会となるはずだ。（の）

「新報」読者会

10月9日（第2火）18時

弓之町「時事問題懇話会」

10月19日（第3金）18時

※NPO岡山社文会議室